

**<研究会>1.HAコーティングインプラント35年の臨床成績(第12回北海道医療大学歯学部口腔外科研究会)**

著者名(日)	田村/田中, 牧 誠, 丸山 ゆみ子, 田西 和伸, 加藤 千佳子, 山田 雄, 舞田 健夫, 田中 牧
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	14
号	2
ページ	231
発行年	1995-12-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00008091/">http://id.nii.ac.jp/1145/00008091/</a>

## 〔研究会〕

### 第12回 北海道医療大学歯学部口腔外科研究会

日時：平成7年6月24日（土）

場所：きょうさいサロン 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル

#### 1. HAコーティングインプラント3 5年の臨床成績

○田村 誠，丸山ゆみ子，田西 和伸，  
加藤千佳子，山田 雄，舞田 健夫，  
田中 牧

（北海道医療大学医療科学センター 医科歯科クリニック）

当クリニックでは、これまでにハイドロキシアパタイトコーティングインプラントを患者75人に対し、334本埋入した。今回補綴処置後最長3 5年の成績について調査、検討したので報告した。

年齢及び性別にみたインプラント埋入数は、男性168本、女性166本と、ほぼ同数で、40代でインプラントが多く埋入され、部位別では男女とも下顎臼歯部で多く、全体の約70%を占めていた。これはインプラントを主に臼

歯部遊離端欠損症例の回復に使用しているためである。インプラント埋入手術後、撤去したインプラントは6本、うち4本は上顎で、成功率は95.7%、下顎は2本撤去したため99.1%であった。インプラントの長期経過を予測する上で歯頸部の骨吸収の診査が、有効な手段になると考え、埋入されたインプラント周囲の骨レベルを経時的に計測した結果、全体的な骨吸収のレベルは、36か月後下顎臼歯部において最大1.0mmであった。

#### 2. 北海道社会保険中央病院歯科口腔外科開設2年2か月の患者動向

○秋月 一城，藤田 景子，吉田 直子，  
角尾 三咲

（北海道社会保険中央病院歯科口腔外科）

平成5年4月の開設以来、2年2か月間に当科を受診した患者について、その動態及び有病者の実態調査を行った。平成7年7月31日現在の患者総数は40代、50代、20代、の順に多く、性差は男性623名、女性768名で、1.123と女性の患者がやや多かった。患者の来院経路は、紹介なく外来を受診する患者が892名64.1%を占め、紹介は本院他科からが453名32.6%、他病院からの紹介が46名3.3%であった。本院他科からの紹介患者の内訳は、内科が55.2%と最も多く、次いで耳鼻科23%、整形外科18.8%の順であった。疾患別分類では齶蝕が54.4%、次いで床

義歯による欠損補綴を要した症例が21.8%と多かった。また外傷、顎関節症、粘膜疾患といった口腔外科的疾患も27.4%を占め、徐々に増加する傾向にあった。全患者中41.8%に何らかの他科疾患を認めた。その割合は40～50歳代を境に増加する傾向があり60歳代以上では全て70%と高率を示した。他科疾患は高血圧、心疾患といった循環器系疾患や結核などの呼吸器疾患がそれぞれ約25%を占めていた。入院を要した症例は顎堤形成4例、顎骨骨折3例、炎症3例、術後性上顎嚢胞2例などを含め19名であった。